

令和2年 4月 9日

2020年度「多摩地域市民活動公募助成」助成事業実施報告書

団体名 青梅精神保健福祉家族会「ほっと・スマイル」

代表者・役職名 氏名 世話人代表遠藤 美代子 事務局 中住 孝典

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

○精神保健福祉の理解向上に向けた啓発活動 ○家族による家族相談活動

2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

青梅市には精神障害者の家族会が長きに渡り存在しなかった。近隣の地域には家族会があり家族の方々は近隣の家族会を頼り参加するという状況があった。青梅市内にも家族会が欲しいという家族の声が高まり、青梅市障害者自立支援協議会の場で家族支援部会を立ち上げ1年間の準備期間を経てH25年12月青梅精神保健福祉家族会ほっとスマイルを結成した。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

精神障害者と家族を取り巻く状況は入院中心主義から地域移行及び地域定着支援へと地域にそのシフトが大きく移りつつある。また精神障害者のみならずその家族に向けた支援も共に必要である。そのため地域における啓発活動と当事者、家族がピアの立場でサポート力を身につけていく事も同時に大切な課題となっている。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

1. 精神保健福祉に関する講演会、学習会の実施。

○講演会 1/年 (2回予定していたが1回しかできなかった。)

「ともに暮らす場を地域に求めて～はらからの家の実践経過、制度の変遷」

はらからの家福祉会 代表 伊澤雄一氏 ピアスタッフの方2名

○研修会 ①「元気回復行動プラン・WRAPに触れてみよう」当事者 石井 まい子氏

②東京都精神保健福祉家族会 副会長 本田道子氏 を交えて

③地域活動支援センターハッピーウイング 所長 下地氏を交えて

2. 家族による家族のための精神保健福祉相談会

5回実施 (R1年9月、10月11月、R2年1月、2月)以後新型コロナのため中止。

毎回平均3~4名の相談者あり。(家族だけではなく当事者の相談もあり)

プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの「効果」 300文字程度まで

地域啓発活動を目的とした精神保健福祉に関する講演会、研修会活動、及び家族による相談活動を行う事により講演会においては市役所や地域の支援機関、一般市民等幅広い参加が得られ、精神保健福祉の問題に対する連携や関心を広げることができている。また家族相談会をおこなったことで来やすい相談場所として認識され今まで公的な場は敷居が高いという事で相談に行けなかった相談者となつたり、役所などからも相談に乗ってほしいと紹介されるなどピアとしての相談機能の必要性が実感できる場となっている。また相談に応じる家族自身も相談する側から相談される側としての役割を担う事で、目的意識をもって生きる勇気や力を養っているように思われる。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

このプロジェクトを続けながら、今後、行政に対する働きかけを継続し、社会資源の一つとして家族会の存在の重要性を認識してもらおうということ。また精神保健福祉の支援システムの一つとして家族会機能を位置付けさせ財政的にも保障しながら家族会の育成や運営に対する支援強化の必要性を訴えていく。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし

「共に暮らす場を求めて」

～はらからの家の実践経過、そして制度の変遷

講師 社会福祉法人はらからの家福祉会

総合施設長 伊澤 雄一 氏

ピアスタッフの方々

日時: 5月25日(土) 12:30～16:00

場所: 青梅市文化交流センター



国分寺をホームベースとする「はらからの家福祉会」は1981年(S56年)に民間アパート6室を借り福祉的共同住居(今のグループホームの先駆け)をスタート。アパートの火災、地域住民の反対などありながらも精神障害者の地域生活支援に向けた活動を行ってきたという経過があります。1998年(H19年)社会福祉法人認可。

現在はピア国分寺など複数のグループホーム、サツキ共同作業所などの複数の就労支援事業所、地域生活支援センタープラッツの運営を通して精神障害者の総合的な地域生活支援を行っている支援機関です。

また精神科病院に長期に入院している患者さんの地域移行(退院支援)にもライフパートナーと呼ぶ当事者スタッフの方々と積極的な取り組みを行っており、西多摩地域の複数の精神科病院にも退院支援で関りをもつなど、青梅とは縁の深い支援機関といえます。

伊澤雄一氏はその創設者でもあり「はらからの家福祉会」の理事・総合施設長として長年にわたり精神障害者の地域生活支援活動に取り組んでおられる方です。

真如苑助成事業

主催: 青梅精神保健福祉家族会「ほっと・スマイル」

(お問い合わせ: 中住 090-7181-9856)